

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大学名	東北大学
-----	------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <h1 style="text-align: center; margin: 0;">A</h1>	<p>目的は概ね実現された。</p>
<p>(コメント)</p> <p>拠点大学の国際化については、中期目標・中期計画において、「世界と地域に開かれた世界リーディング・ユニバーシティ」という基本方針を掲げ、更に「里見ビジョン」及び「グローバルビジョン」において、国際的な頭脳循環のハブとして世界に大きく貢献する真の「ワールドクラスへの飛躍」を果たすことを目指すという基本理念の下、海外拠点を活用し、国際化に対応する組織体制の整備を行うなど、総長のリーダーシップが発揮されており、国際化を戦略的に推進している。</p> <p>英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設されているが、十分な入学者数が確保されていないコースがあるため、今後の改善が望まれる。本事業を中核的に進める教員については、国際教育院を設置し、配置することで教育内容の向上が図られており、大学の国際化は大学教員の国際化であるという考えを持って、国際的に通用するカリキュラムを編成するとともに、その評価と改善が適切に行われている。</p> <p>留学生受入のための環境整備については、宿舎の整備、奨学金や日本語教育の充実等、本事業の取組により、内容が充実している。</p> <p>海外大学共同利用事務所の整備については、計画どおりモスクワ大学内にロシア海外大学共同利用事務所を設置してロシア人現地スタッフを常駐させ、日露学長会議を開催するとともに、日露青年交流事業では日本国内32大学の学生100名をモスクワ大学に派遣するなど、現地におけるネットワーク構築、我が国の大学の情報発信や学生募集等が積極的に行われている。</p> <p>目標の達成状況については、東日本大震災の影響を受けたため、学生の流動化の一つの指標である大学間交流協定等に基づく交換留学の派遣・受入学生数が目標を達成していない。平成32年度末の派遣・受入学生数や外国人教員数の目標達成に向けて、かなりの努力が不可欠である。</p> <p>今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、国際教育院が恒常的な組織に位置付けられ、教育の国際化が全学的教育の支柱となったこと、学部、大学院それぞれにおける英語による授業のみで学位が取得できるコースの今後の方向性が具体的に検討されていることや、1,000名程度を収容できる新たな宿舎の新設計画と独自の奨学金制度の立ち上げ計画等により、今後の国際化の更なる推進が期待できる。</p>	